

2024年12月22日（降臨節第4主日、C年）

牧師メッセージ

「聖霊によって主を知る」

（ルカによる福音書1:39-45）

司祭ヨセフ太田信三

いよいよ降臨節最後の主日です。マリアとエリサベトのように、「聖霊によって」、クリスマスをおわたしたち自身に起こった出来事として迎えられるよう、最後の備えの主日を大切に過ごしましょう。

聖霊によって子を宿したマリアは、いとこのエリサベトも懐妊したことを知り、彼女に挨拶するために急いで出かけました。マリアの挨拶を聞いたとき、エリサベトのお腹の子が踊りました。そしてエリサベトは聖霊に満たされ、マリアとその胎内の子は祝福されている、と声高らかに言いました。「私の主のお母様が、私のところに来てくださるとは、何ということでしょう。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。」マリアが説明したわけでもないのに、エリサベトはマリアの胎内の子が「主」であることを知りました。これはエリサベトを満たした聖霊によるものでした。エリサベトがはっきりと、「これは聖霊の働きだ」と分かったわけではありません。エリサベトは「胎内の子が喜び踊る」という聖霊の働きかけを受け、「主」であることを悟ったのです。聖霊はときにわたしたちの気が付かないような仕方で働きます。しかし、人が喜びに満たされるとき、そこには聖霊が働いています。聖霊によって結ばれたマリアとエリサベトに主にある喜びが溢れました。マリアがなぜ急いでエリサベトのところに行ったのかというと、もちろん自分の不安を共有したかった、ということもあるでしょう。しかし何より、この祝福を、喜びを分かち合いたかったのです。そのマリアとエリサベトに、聖霊の働きによって、主イエスの誕生の喜びは伝えられたのです。

今日、あらためてこの聖霊を近くに感じましょう。主イエスの働きは聖霊が降った弟子たちに引き継がれ、その弟子たちに聖霊が働き、教会が誕生しました。教会に集められた人々は聖霊によって神の家族とされます。他ならない私たちもその家族の一員です。私たちもエリサベトとマリアと同じ、聖霊によって結ばれ、喜びを分かち合うために教会に集められているのです。私たちはこの聖霊によって、エリサベトとマリアと同じように主イエスを知ることができます。そして、聖霊が働いてくださるからこそ、来るべき日をマリアとエリサベトと同じように喜びをもって迎えることができます。さあ、いよいよ降臨節最後の主日です。エリサベトの胎内で子が踊ったことで表されたように、私たちにも日々表されている聖霊の働きを感じましょう。その聖霊の働きをあらためて信じましょう。そして喜びに満たされて、来るべき日を迎えましょう。